

平成18年6月1日発行（毎月1日発行）  
通巻372号  
発行（社）日本オーディオ協会

Japan  
Audio  
Society

# JAS

# journal

2006  
Vol.46

No 6

- JASインフォメーション
  - 5月度理事会および運営会議報告
  - 平成18年度通常総会報告
  - 6月度理事会報告
- イベントレポート
  - NHK放送技術研究所の一般公開
- 連載：テープ録音機物語
  - その17 戦後のアメリカ(5)
- 協会事業関連資料集

阿部 美春

# Japan Audio Society JAS journal

(通巻372号)

2006 Vol. 46 No. 6 (6月号)

発行人：鹿井 信雄

社団法人日本オーディオ協会

〒104-0045 東京都中央区築地 2-8-9

電話：03-3546-1206 FAX：03-3546-1207

Internet URL

<http://www.jas-audio.or.jp/>

## C O N T E N T S

- 2 JASインフォメーション  
5月度理事会および運営会議報告  
平成18年度通常総会報告  
6月度理事会報告
- 5 イベントレポート  
NHK放送技術研究所の一般公開
- 6 連載：テープ録音機物語  
その17 戦後のアメリカ(5)  
[協会事業関連資料集]
- 11 平成17年度事業報告書
- 12 平成17年度収支計算書
- 13 平成18年度事業計画書
- 14 平成18年度収支予算書
- 15 平成18年度入会金および会費規則
- 16 平成18年度役員名簿
- 17 平成18年度協会組織図

## 6月号の配信にあたって

「JASジャーナル6月号」をお届けします。

6月5日開催の通常総会において承認された、平成17年度の事業報告と平成18年度の事業計画関連の資料をPDF版でお届けします。論文記事もPDF版のみとし、その他の記事はHTML版を合わせてお届けします。「新連載：A&AV入門講座」は休載させていただきます。

平成18年4月1日以降のJASジャーナルの配信化や個人賛助会費の無料化などに対応した協

会ホームページの更新が必要になっていますが、通常総会で事業計画が承認されたことを受けて、ネットからの入会手続きの簡素化を含めて近日中に更新する予定です。

メールアドレスをお持ちでない個人正会員へのJASジャーナル配信について検討事項とさせていただきますでしたが、4月特集号以降、特集号のコピー(B5判・黒単色)を配送させていただきますこととしました。(編集事務局)

### ●●● 編集委員会委員 ●●●

委員長 藤本 正熙  
委員 伊藤 博史 〈(株)D&M デノン〉  
大林 國彦  
蔭山 恵 〈松下電器産業(株)〉  
北村 幸市 〈(社)日本レコード協会〉  
高田 寛太郎 〈アムトランス(株)〉

委員 豊島 政実 〈四日市大学〉  
濱崎 公男 〈日本放送協会〉  
森 芳久 〈ソニー(株)〉  
森下 正巳 〈パイオニア(株)〉  
山崎 芳男 〈早稲田大学〉

## INFORMATION ①

## 5月度理事会および運営会議報告

## 5月度理事会

平成18年5月22日に、協会会議室において役員28名出席のもとで、通常総会に付議する平成17年度事業報告と決算の承認を求める5月度理事会が開催されました。

## 第1号議案「平成17年度事業報告案の承認を求める件」

平成17年度の事業報告案が原案通り承認されました。

## 第2号議案「平成17年度収支決算案ならびに監査報告の承認を求める件」

平成17年度の決算案が説明され、監事の監査報告と合わせて承認されました。

## 第3号議案「平成18年度修正予算案の承認を求める件」

3月度の理事会で承認された平成18年度予算案に関し、会費収入ならびに事業収入見込みの精度を高めて修正し、通常総会に付議することが承認されました。

## 第4号議案「役員改選の承認を求める件」

本年度は役員改選期にあたり、通常総会に付議する改選案が承認されました。

## 5月度運営会議

5月度理事会に続いて第66回運営会議が開催され、平成18年度の普及・啓発事業を実施する方策を定めて順次実行に移すための普及推進部会の新設について審議し、6月下旬を目標に部会編成を進めることが了承されました。

普及推進部会と従来のAA・AV合同部会の位置づけの明確化についての意見があり、AA・AV合同部

会は新設の普及推進部会につながり技術的な課題等を検討する委員会への再編成を検討することとなりました。

普及推進部会は法人A～D会員各社ならびに法人E会員および法人賛助会員で部会参加を希望する会員各社で構成されます。

部会では協会事業活動費のA・AV普及・啓発に向けての効果的な活用による協会運営の活性化を目的に、主要活動の絞り込みと活動方針、ならびに活動テーマ実行のプロジェクト設置について審議をいただきます。6月度に第1回部会を開催し、以降3ヶ月おきの開催を予定します。活動テーマの候補案としては、事務局より次のような素案が示されました。

## (1) 団塊世代向けオーディオソフト／ハードの連携プロモーション推進

シニアアダルト向けに「音楽を楽しむライフスタイル」と「大人のサウンドを楽しむ」というテーマでソフト・ハードが連携して提唱し、フェスタでの集合展示等のプロモーション活動を行う。

## (2) 少年育成NPOとのジョイントA&amp;V体験試聴会の推進

全国各地で活動中の青少年育成NPOとタイアップし、育成カリキュラムにA・AV体験(工作教室も含め)の組み入れ・実施をプロモートし、A・AVファン予備軍の育成・増強を図る。

## (3) 関連業界による「サラウンドの日」の推進

5月1日を放送・レコード・AV機器メーカー・流通の横断的な「サラウンドの日」とすることを提唱、実行委員会の組織化を呼びかけ、展示会等を実施し普及・啓発および拡販を図る。

## INFORMATION ②

## 平成18年度通常総会報告 6月度理事会報告

平成18年6月5日11時より12時まで、トスラブ赤坂において来賓・役員・会員54名出席のもとで、平成18年度日本オーディオ協会通常総会が開催されました。

### ～経済産業省 横尾課長様のご挨拶～

総会に先立ち、来賓を代表して経済産業省商務情報政策局 情報通信機器課長 横尾英博様(写真)より次のようなお挨拶をいただきました。



「経済産業省では景気回復を中・長期的に持続可能なものにするために先月『新経済成長戦略』を策定しました。キーワードは、『人口減少下での新しい成長、イノベーションと需要の好循環』です。人間が減るわが国で人材の質を上げ、世界に冠たるイノベーションの拠点にすることです。

わが国は従来、世界に冠たるオーディオ機器メーカーであり、オーディオ協会もそれを背景として単に業界団体ということではなく、音の文化、映像の文化を広めつつ基盤となる技術を磨いていく総合的な団体であると認識しており、従来からの皆様方の活動に深く敬意を表すところであります。

これからは新しい音の文化とは映像の文化の市場開拓と需要の拡大、それを支える技術イノベーションを底上げしていくという『新経済成長戦略』に合ったコンセプトで、今後とも更なる発展と活動の活発化をオーディオ協会に期待しています。

豊かな社会になる中で、ひとりひとりの生活の豊

かさ、精神的な価値を高めるさまざまな活動が重要になっており、とりわけ『音』については重要な要素だと思っております。

家庭でのリビングにおける単なる大きいテレビを超えたホームシアター、また携帯音楽プレーヤーの隆盛はまさにニーズの現れであります。しかしまだまだ携帯プレーヤーは音的には必ずしも満足できるものではないと思っておりますので、今後一層マーケットの拡大、技術開発の余地があるところであります。ここはまさに日本が活躍できる大きな場面であると思っております。

オーディオ協会をめぐる環境としては、本国会で成立する公益法人の抜本的な制度改革があります。これにより従来は業界団体で公益法人だったものの公益性がなくなるという位置づけになりますが、オーディオ協会は単なる業界団体ではないのでありまして、まさに音の文化を広める極めて公共的な性格の団体として更なる進化を強く祈念したいと思っております。」

### ～通常総会議事～

総会においては次の5議案が上程され承認されました。それぞれの内容はPDF版にて掲載しましたのでご覧下さい。

**第1号議案「平成17年度事業報告の承認を求める件」**

**第2号議案「平成17年度収支決算報告ならびに監査報告の承認を求める件」**

平成17年度は計画に沿った事業が行われ、副会長の特別支援も得て一般会計、特別会計ともに収支バランスが計画を上回ったことが報告され承認されました。続いて監事より監査結果が報告され承認されました。

**第3号議案「平成18年度 事業計画の承認を求める件」****第4号議案「平成18年度 収支予算の承認を求める件」**

収支バランスを改善しつつ公益法人としてのオーディオおよびオーディオビジュアルに関する普及・啓発活動を行う事業計画案と、3月3日の臨時理事会で決議された会費規則改定に基づく予算案が説明され、合わせて承認されました。

**第5号議案「役員改選の承認を求める件」**

任期満了にともなう役員改選について、重任理事20名、退任理事10名、新任理事10名、重任監事2名が提案され、理事30名、監事2名の新役員が承認されました。



総会における鹿井議長



総会議事

**懇親会**

通常総会ならびに理事会終了後、懇親会が開かれ出席会員間の交流を深めました。

鹿井会長は「引き続き有益な普及・啓発活動を行うための協会改革を進めていきたい」と挨拶されました。周田副会長の音頭で乾杯のあと、新任理事の皆様のご紹介がありました。

長年にわたり役員として協会運営に貢献し部会や委員会活動に尽力された佐伯多門氏、相澤宏紀氏、大林國彦氏の理事ご退任に際して鹿井会長より感謝の記念品が贈呈されました。



周田副会長の乾杯ご挨拶



懇親会会場



左より相澤宏紀氏、大林國彦氏、佐伯多門氏、鹿井会長

**6月度理事会報告**

平成18年6月5日の通常総会終了後に、トスラブ赤坂において新役員21名出席のもとで6月度理事会が開催されました。

**第1号議案「会長、副会長、専務理事の選任について」**

会長に鹿井信雄氏(重任)、副会長に周田悦治氏(重任)三村益一郎氏、山内慶一氏、大津雅弘氏(以

上新任)、専務理事に藤本正熙氏(重任)が選任されました。

**第2号議案「新会員の承認を求める件」**

5月22日より6月4日の間に入会申請のあった個人正会員1名の入会が承認されました。



## NHK放送技術研究所の一般公開

去る5月25日から28日にかけて、東京・砦のNHK放送技術研究所で恒例の一般公開が行われました。

### 「高品質ライブ音場再現システム」の体験試聴

昨年7月の会員例会で体験していただいた「高品質ライブ音場再現システム」の新しいプログラムが講堂で公開されました。

「高品質ライブ音場再現システム」は、収録した音響空間を正確に再現する高臨場感を目指した音響システムで、実音場と同じように聴取位置を変えると空間音響印象が変化し、かつ広範囲な聴取エリアで高い音響品質と臨場感を再現できる収録・再生方式を目標に研究が進められています。

未来の立体音楽堂「不思議なコンサートへようこそ」というタイトルで、講堂内のマルチチャンネルシステムで再生されるオーケストラ演奏に合わせて別の場所で演奏するバイオリン独奏者によるモーツァルトの協奏曲と、ドビッシーの小組曲を、あたたかもコンサートホールの客席にいるかのように再現する試みでした。



解説する濱崎公男さん

### 「スーパーハイビジョン」の視聴

公開展示の一つとしての「スーパーハイビジョン」は、ハイビジョンの16倍の解像度を持つ超高精細映像システムです。映像フォーマットは7680×4320画素、フレームレート60Hzの順次走査、音響には22.2マルチチャンネル音響システムが用いられています。

マンハッタンを上空から撮影した映像や、タイムズスクエアの雑踏を低いアングルから収録した22.2chのマルチチャンネルサウンドには迫力がありました。

22.2ch再生方式では音源の上下感の再現が重要なテーマになっていますが、聴取者の上方に置かれるスピーカーは前方・後方ともに45度以上の仰角が必要などの研究成果が展示されていました。



講堂ステージのスピーカー群



## 「テープ録音機物語」

その17 戦後のアメリカ(5)  
ホーム用テープ録音機 -3-あべ よしはる  
阿部 美春

## 10. リビアカメラ社

## T-100型 (2) (38) (68) (135) (136)

リビアカメラ社 (Revere Camera Corp.) は1939年以來の小型ムービーカメラや映写機のメーカー\*1で、1949年頃からホーム用テープ録音機を手がけ、続々と新型を発表し、さらに8mm映写機との同期装置も発売するなど、1950年代に入って8mmムービーカメラでは米国第2位、テープ録音機では米国最大の生産量を誇っていた。

T-100型は1949年に発売されたリビアカメラ最初のテープ録音機である(写真17-1)。



Revere T-100

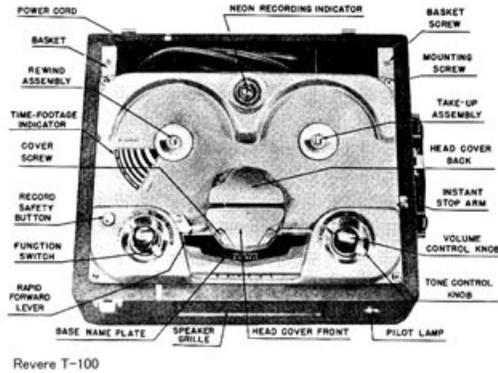
写真17-1 Revere T-100型 テープ録音機 (135)

テープ駆動機構は1モーター式、ヘッドは2ヘッド式で、普及型構成である。テープ速さはいち早く3-3/4インチ/秒の低速を採用、したがって5インチ・リールで30分の録音ができ、ヘッドはハーフトラックであるから、テープリールのかけかえで往復1時間の録音再生が可能となる。周波数特性は85~7,500Hz±3dB、ワウ・フラッター0.3%以下とうたっている。主な仕様を表17-1に示す。

表17-1 Revere T-100 型の主な仕様 (135)

製造年	1949-1955
価格	\$165.50 (1954年)
トラック形式	ハーフトラック・モノ
ヘッド	2
モーター	1
リール	最大5インチ
テープ速さ	3-3/4 (または1-7/8) in/s
周波数特性	@3-3/4 in/s : 85-7,500Hz, ±3dB @1-7/8 in/s : 100-5,000Hz, ±3dB
ワウ・フラッター	<0.3 %
SN比	>45dB
ひずみ	<1.5%
巻戻時間	30秒 (600 フィート・テープ)
出力	0.5W
入力端子	mic and phono/radio
出力端子	外付スピーカー
スピーカー	5"×7"
寸法	14"×12"×9"
重量	25lbs (11.4kg)

写真17-2に上部パネル面の各部名称を示す。正面パネル、左側の大きなつまみはテープ駆動の切替え操作 (Function Switch) で、巻戻し、ストップ、プレイ、そしてつまみ左側の録音誤操作防止 (Record Safety) ボタンと連動して、録音の切り替えができる。録音はマイクとフォノまたはラジオの2段切り替えになっている。早送りはプレイ状態で、つまみ右側のレバーによって操作され、早送り速さは可変できる。巻き戻し時間は600フィートテープで60秒、起動・停止はフートコントロールもできる。パネル右側の2重つまみは外側のリングがトーンコントロール、内側のつまみは電源スイッチとボリューム・コントロールである。

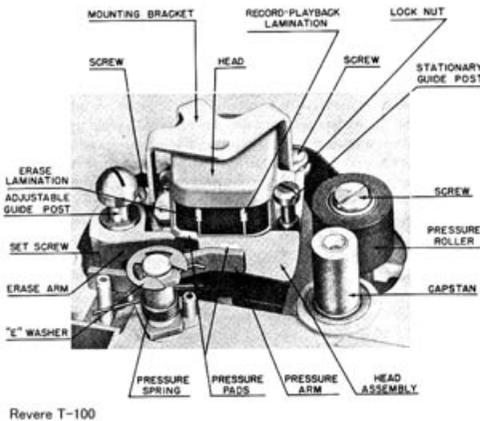


Reverse T-100

写真17-2 Revere T-100型 上部パネルの各部名称 (38)

録音レベルの監視 (Recording Indicator) はパネル後方、リール間にあるネオンランプによって行われる。そして、テープのフーティジカウンター (Footage Indicator) はパネルの供給リール下側部分に目盛りが印刷されている。

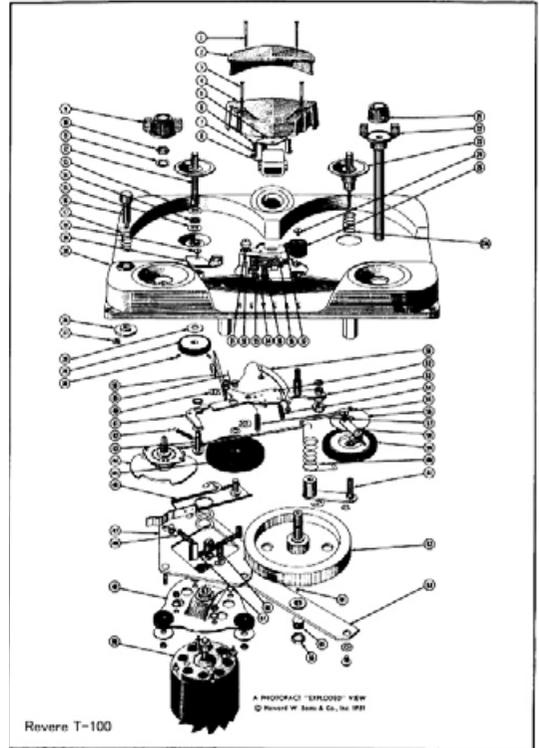
写真17-3はヘッドカバーを外したときのヘッドとキャプスタン周辺を示す。内部機構を含め、各ユニットごとにアセンブリーになっていて、保守が容易な構造である。



Reverse T-100

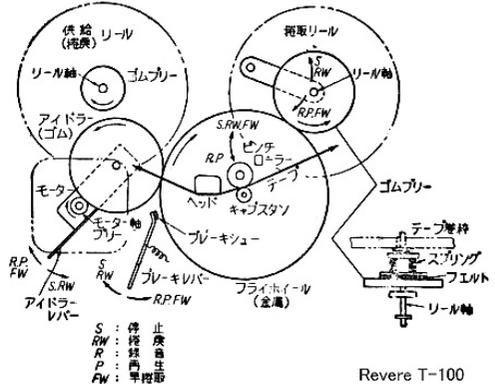
写真17-3 Revere T-100型 ヘッドとキャプスタン周辺 (38)

図17-1にテープ駆動機構の分解図、図17-2に機構部の動作を示す。同図は多田正信著「磁気録音機」(オーム社、1953年5月)で、3.6 テープ式録音機駆動機構のうち「単一モーターの駆動機構」の機構例として取り上げられたものである。以下、解説文を抜粋してみた。



Reverse T-100

図17-1 Revere T-100型 テープ駆動機構部の分解図 (136)



Reverse T-100

図17-2 Revere T-100型 テープ駆動機構部の機構 (2)

テープ録音機の駆動機構の一例として、単一モーターを使って普及型の模型的構造を図に示す。巻取りリールはキャプスタンから繰出されたテープを巻き取るにしたがって、次第に巻径が増加するから、巻取りリール軸は必ず図示のように摩擦を介して駆

動されることが必要である。巻き戻しの際はモーター軸を中心として、これに接触したままアイドラークが巻き戻しのゴムプリーに結合し、同時にブレーキシューが圧着されてフライホイールを急速に停止させピンチローラーは開く、このときピンチローラーの開放が遅れるとテープを切る恐れがある。また、早巻取り操作は正常の録音・再生状態においてピンチローラーを開放するだけでよいのである。元来、巻取りリールのゴムプリーは相当早く回転しているのだから、キャプスタン部の拘束がなくなれば、摩擦結合の滑りが減少して高速度の巻き取りが行われるわけである。図示していないが前述のとおり、この際パッドも開放されなければならないことはもちろんである。

図17-3に回路図を示す。録音・再生増幅器は初段に5極管6J7(後に低雑音管5879に変更している)、2段目と3段目に5極管6SJ7、そして出力段に6V6を使い、録音出力は6V6のプレートから、スピーカー出力は出力トランスの2次側から得ている。バイアス・消去用発振は6K6-GTによっている(発振周波数は不明)。価格は\$169.50(1954年の資料より)である。

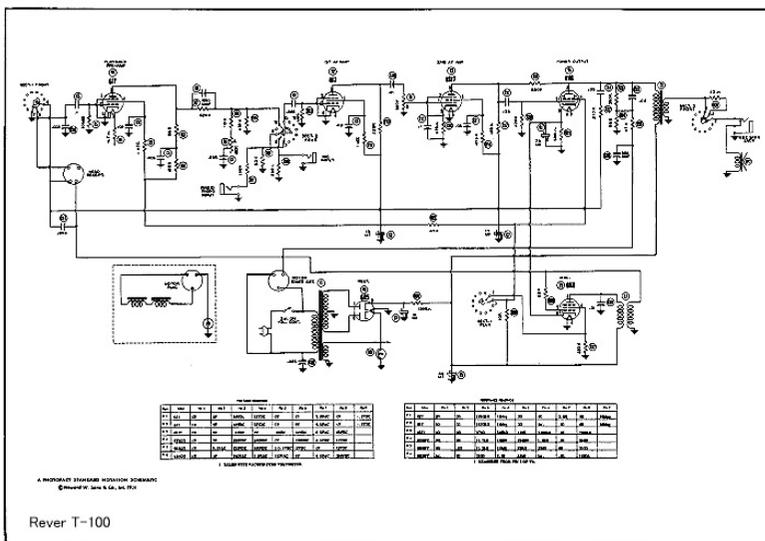


図17-3 Revere T-100型 回路図 (136)

このモデルは1950年代に入ってAMラジオ付(T-200, 写真17-4)、1-7/8インチ/秒(T-500)、そしてT-500のラジオ付(T-600)などのバージョンモデルも発売している。これらのモデルはテープレコーダー一覧表の1957/1958年版<sup>(143)</sup>までリストされていた。いかに長命であったか、あるいは在庫がまだあったのかも知れない。

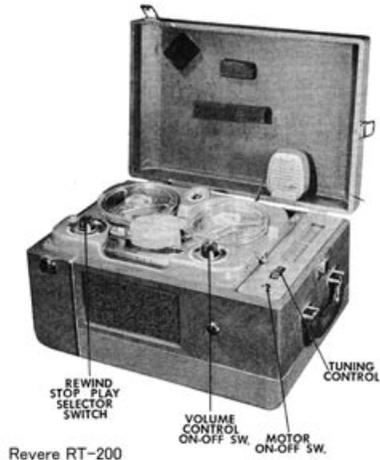


写真17-4 Revere RT-200型 ラジオ付テープ録音機 (137)

注\*1 Revere Camera社の前身は自動車のラジエーターや家庭用品のメーカーで、ウクライナからの移民サムエル・プリスキン(Samuel Briskin)が1920年に設立した会社である。8mmカメラはサムエルの息子が当時、父の会社の子会社として1939年に発足したが、折からの大不況のあおりで、資金面でリビア・カッパー社(Revere Copper Co.)から援助を受けることになる。その関係で社名がリビアカメラに変わった。後にシャッターやレンズでリビア社のサプライヤーであったウォレンサック社(Wollensak Optical Co.)を吸収合併し、ブランドをRevere-Wollensakとする。1960年になってサミュエルが不治の病にかかり、プリスキン家は会社を3M社に売却し、R/W社は3Mの一部門になった<sup>(138)</sup>。

## 11. ウィルコックス・ゲイ<sup>(3)</sup>

写真17-5はウィルコックス・ゲイ社 (Willcox-Gay Corp.) の円盤レコード (78rpm) プレーヤーとテープ録音機を組み合わせたもので、この後からアンプリコー (Amplicolor), プレスト (Presto) などからも混合機が発売された。ウィルコックス・ゲイ社は1951年ごろから本格的なテープ録音機各種を発売している。



写真17-5 Willcox-Gay "Recordio"  
フォノプレーヤーとテープ録音機の混合機<sup>(3)</sup>

## 12. アンプロ 730型<sup>(2)</sup> (133) (139)

アンプロ社 (Ampro Corp.) 730型は安価なテープレコーダーとして1950年に登場した (写真17-6)。7インチリール、3-3/4インチ/秒、ハーフトラックで、リールの裏表で2時間の録音ができる。交流バイアス方式であるが、消去には永久磁石を用い、5"×7"の楕円スピーカーを備えて2Wの出力が得られる。マイクはピエゾ型、重量は37ポンド (16.8kg)、価格は\$159.50である。翌年発売された731型は録音トラック形式がフル・トラックになっている。731型では、周波数特性50Hz~6kHz, SN比42dB, ワウ・フラッター1%以下とうたっている<sup>(140)</sup>。

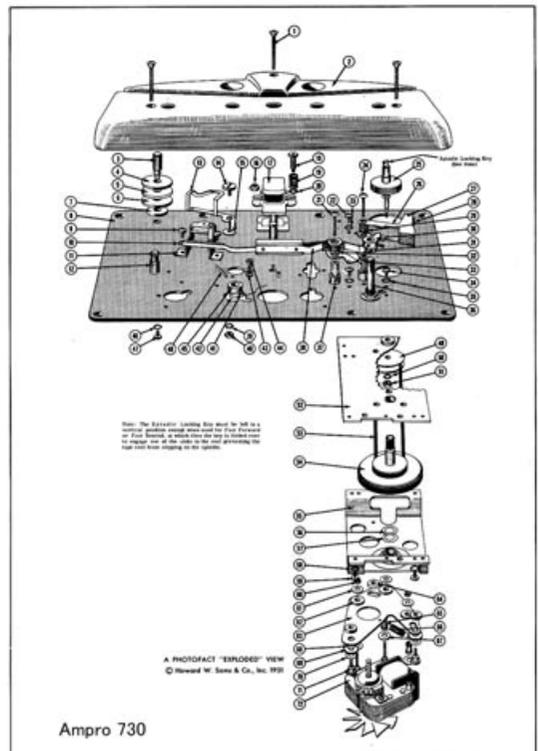
図17-4に機構部の分解図を示す。構造が簡単なせいか、高速で早送り、巻き戻す時はテープを録音・再生時のヘッド、キャプスタンを通るパスからはずして、左右リール間にある2本のピンに図17-5のように巻きつけて早巻き動作に入るように

なっている。この場合、早送り速さは72インチ/秒、巻き戻しは120インチ/秒となる。



Ampro 730

写真17-6 Ampro 730型 テープ録音機 (139)



Ampro 730

図17-4 Ampro 730型 テープ駆動機構部の分解図 (139)



Ampro 730

図17-5 Ampro 730型 早送り・巻き戻し時のテープパス (139)



# 平成 17 年度事業報告書

(平成 17 年 4 月 1 日から平成 18 年 3 月 31 日まで)

社団法人 日本オーディオ協会

本協会は定款の目的に従い、人々が日常的に良い音に接して人間性を豊かにし、文化と産業の発展に貢献する立場から、オーディオ及びオーディオ・ビジュアル（以下オーディオ等）に関するソフト・ハード・視聴環境の調査及び研究、普及及び啓発、基準の作成、情報の収集及び提供、展示会の開催、人材の育成、内外関係機関等との交流及び協力等、本会の目的を達成するために必要な事業を実施しました。

平成 17 年度においては、オーディオ等に関する視聴システム環境が大きく変化しつつある中であって、部会や各種委員会の活動、「A&V フェスタ 2005」展示会や「音の日」行事等を実施し、カスタマーに対する新しいオーディオ等の普及・啓蒙と、会員の交流に努めました。また、時代の変化に対処する協会事業改革の検討を進め、次年度以降の運営策をまとめました。

平成 17 年度に実施した主たる事業は定款第 4 条各号に沿った通りで、事業計画書に沿った目的は概ね達成いたしました。

**(第 1 号)** アドバンスド・オーディオ(AA)とオーディオ・ビジュアル(AV)の合同部会において立体音響等について意見交換を行い、サラウンドの啓蒙と普及のために電子情報技術産業協会 (JEITA) の協力を得て運営中のホームページの監修や、JEITA における「サラウンド表記についてのガイドライン」策定作業に協力しました。また、立体音響をテーマとした会員例会や A&V フェスタにおけるセミナーを実施しました。

**(第 2 号)** 「音の日」に、立体音響（ステレオからサラウンド）分野でオーディオの発展に貢献した 3 名の「音の匠」を顕彰しました。また、本年は海外 1 名の方に特別賞を贈りました。顕彰式に続いて受賞者による記念講演会を実施しました。

2 月に開催されたオーディオフェスタ・イン・ナゴヤ 2006 においても「音の匠」を講師に迎えたセミナーを実施し、同イベントに協力しました。

**(第 3 号)** オーディオエンジニア及び一般カスタマーに向け、再生音の評価や測定に役立つ CD、DVD 等の頒布を行いました。

**(第 4 号)** 会誌「JAS ジャーナル」特集号 4 冊、通常号 4 冊を発行しました。

情報提供手段として重要性が増したホームページに関して、7 月に協会ホームページの一新をはかりました。また、マルチチャンネルオーディオ／サラウンドホームページの月次更新作業を実施しました。

協会創立 55 周年記念行事の一環として国立科学博物館産業史資料情報センターのオーディオ産業史資料の所在調査と技術の系統化研究への協力をを行い、関連資料を提供しました。

**(第 5 号)** パシフィコ横浜において 9 月 21 日～24 日に展示会「A&V フェスタ 2005」を実施し、多くの出展社と入場者を集め、一般カスタマーを対象としたオーディオ等の最新動向の普及・啓蒙面において大きな役割を果たしました。

**(第 6 号)** 販売店社員やカスタマーを対象とする教育事業について、ネットの活用法についての事前調査を進めました。

**(第 7 号)** 第 12 回日本プロ音楽録音賞を関連団体と共催して実施し、「音の日」に 3 部門 8 作品の制作技術者を表彰しました。

オーディオソフトの制作技術向上を目的とするプロフェッショナルオーディオ協議会に参画して、5 月に開催された「映画テレビ技術 2005」の開催に協力しました。

# 平成17年度 収支計算書

(平成17年4月1日～平成18年3月31日)

(単位:千円)

## 収入の部

	平成17年度収入予算			平成17年度収入実績			差 額		
	合計	一般会計	特別会計 (展示会)	合計	一般会計	特別会計 (展示会)	合計	一般会計	特別会計 (展示会)
1. 前期繰越	33,702	21,173	12,529	33,702	21,173	12,529			
2. 会費(含入会金)	29,924	29,924		31,018 (1)	31,018		1,094	1,094	
3. 特別会費	4,000	4,000		4,000	4,000		0	0	
4. 事業収入	127,455	3,351	124,104	147,523	4,042	143,481	20,068	691	19,377
情報の提供	2,327	2,327		2,089 (2)	2,089		-238	-238	
評価用音源	1,024	1,024		1,953	1,953		929	929	
展示会	124,104		124,104	143,481		143,481	19,377		19,377
5. 助成金収入	6,150		6,150	5,850		(3) 5,850	-300		-300
6. その他収入	350	350		1,253 (4)	1,253		903	903	
7. 小計(2.～6.)	167,879	37,625	130,254	189,644	40,313	149,331	21,765	2,688	19,077
8. 情報整備引当金取崩	3,500	3,500		3,500 (5)	3,500		0	0	
9. 租税引当金取崩				1,800		(6) 1,800	1,800		1,800
10. 当期収入計	171,379	41,125	130,254	194,944	43,813	151,131	23,565	2,688	20,877
11. 収入計	205,081	62,298	142,783	228,646	64,986	163,660	23,565	2,688	20,877

- (注記) (1) 平成17年度予算 正会員 46社、3団体、賛助会員11社、一般325名、シニア129名、賛助18名 合計472名  
平成17年度実績 正会員 47社、3団体、賛助会員15社、一般418名、シニア137名、賛助34名 合計589名 (平成18年3月31日現在)
- (2) 協会誌広告収入・年間購読料
- (3) 展示会開催に対する助成金(Sarah)
- (4) 音の日会費:275、新春の集い会費:514、音の日行事分担金:420、固定資産売却等:44 (単位:千円)
- (5) ホームページの制作運用、会計・管理・会員等の情報管理システム更新のための引当金取崩
- (6) 消費税納税のための引当金取崩

## 支出の部

	平成17年度支出予算			平成17年度支出実績			差 額		
	合計	一般会計	特別会計 (展示会)	合計	一般会計	特別会計 (展示会)	合計	一般会計	特別会計 (展示会)
1. 事業支出	140,742	16,912	123,830	140,749	14,967	125,782	7	-1,945	1,952
調査・研究	1,600	1,600		54	54		-1,546	-1,546	
普及・啓発	3,265	3,265		3,446 (1)	3,446		181	181	
基準の作成(音源)	1,155	1,155		1,084	1,084		-71	-71	
情報の収集・提供	10,142	10,142		9,633 (2)	9,633		-509	-509	
展示会の開催	123,830		123,830	125,782		(3) 125,782	1,952	0	1,952
対外交渉	750	750		750 (4)	750		0	0	
2. 管理費	3,091	3,091		2,977 (5)	2,977		-114	-114	
3. 事業管理費	34,311	20,811	13,500	32,240 (6)	18,740 (7)	13,500	-2,071	-2,071	0
4. 情報整備引当金	0			6,000 (8)	6,000		6,000	6,000	
5. 租税引当金				1,800		(9) 1,800	1,800	0	1,800
6. 記念事業引当金	250	250		250 (10)	250		0	0	
7. 当期支出計	178,394	41,064	137,330	184,016	42,934	141,082	5,622	1,870	3,752

## 収支バランス

8. 当期収支差額	-7,015	61	-7,076	10,928	879	10,049	17,943	818	17,125
9. 次期繰越収支差額	26,687	21,234	5,453	44,630	22,052	22,578			

- (注記) (1) 音の日記念講演会、音の匠顕彰式、懇親会:2,434、会員例会:740 (単位:千円)
- (2) 協会誌発行費用およびホームページ制作・運用費
- (3) 特別会計(展示会)の事業費(内訳:別表1.経費内訳)
- (4) 他団体への協力金(スタジオ協会、デジタルコンテンツ協会、展示会協会)
- (5) 協会一般事業の管理経費(内訳:別表1.経費内訳)
- (6) 一般会計事業に伴う固定的経費(内訳:別表1.経費内訳)
- (7) 特別会計(展示会)事業活動に伴う固定的経費(内訳:別表1.経費内訳)
- (8) ホームページの制作運用、会計・管理・会員等の情報管理システム更新のための引当金繰入  
(単位:千円)  
期首取崩:3,500  
使途:2,337 (ホームページ刷新:1,297 機器リース:574 機器購入:466)  
期末計上:6,000 (期末残:1,163 繰入:4,837)
- (9) 消費税納税のための引当金繰入
- (10) 創立55周年記念事業の引当金繰入

# 平成 18 年度事業計画書

(平成 18 年 4 月 1 日から平成 19 年 3 月 31 日まで)

社団法人 日本オーディオ協会

オーディオシステム及びオーディオ・ビジュアルシステム(以下オーディオ等)を取巻く環境のデジタル化とユビキタス化が進展し、ソフト・ハード・視聴環境が急速に変化する中であって、本協会は人々が日常的に良い音に接して人間性を豊かにし、文化と産業の発展に貢献する『調査及び研究、普及及び啓発、基準の作成、情報の収集及び提供、展示会の開催、人材の育成、内外関係機関との交流及び協力』など、本協会の目的を達成するために必要な事業を集中的かつ効率的に進めます。

平成 18 年度においては、将来に向けてネット情報化時代の変化に対処する協会経営と事業内容の見直しを行い、広く一般の人達を対象にピュアオーディオ・サラウンドシステム・カーAV・モバイルオーディオ等の基本知識と利用法および最新動向を伝えて一層の普及・啓発を図ると共に、会員と一般者間の情報交流を密にしてオーディオ等産業の活性化を図ります。平成 18 年度の主たる事業計画は、定款第 4 条各号に沿った通りです。

**(第 1 号) オーディオ等に関するソフト、ハード、視聴環境の調査及び研究**については、ピュアオーディオ・サラウンドシステム・カーAV・モバイルオーディオ等の普及・啓発に必要な事項の調査および研究を行い、一般者を対象にした普及・啓発事業を進めます。また、新たにオーディオ等の横断的産業統計の調査及び研究に着手します。オーディオ産業技術史資料の所在調査とオーディオ技術の系統化研究を継続します。

**(第 2 号) オーディオ等に関する普及および啓発**については、一般者を対象にしたオーディオ等の普及・啓発事業を強化します。インターネット活用による情報提供、視聴体験機会の提供、「音の日」行事等、一般者への普及・啓発に重点を置いて実施します。

**(第 3 号) オーディオ等に関する基準の作成**については、オーディオ等の視聴環境の向上に役立つソフトの頒布を継続すると共に、調査及び研究の進展に従い新たな視聴テスト音源の提供を進めます。

**(第 4 号) オーディオ等に関する情報の収集及び提供**については、機関誌をメールマガジン形式の『JAS ジャーナル』に改め、情報提供の迅速化と配信対象者の拡大に努めます。あわせて、一般者からのオーディオ等への要望などの情報収集に努め、会員と一般者間の情報交流ならびにオーディオ等産業の活性化に役立てます。

**(第 5 号) オーディオ等に関する展示会開催**については、「A&V フェスタ 2006」を 9 月 21 日～24 日にパシフィコ横浜にて開催します。また、オーディオ等に関連する各種展示会の連係化を目指すと共に、地域オーディオイベント等への後援協力を行います。

**(第 6 号) オーディオ等に関する人材の育成**については、販売店従事者や技術者を対象としたセミナーやミニコンファレンスの開催について検討を進めます。

**(第 7 号) オーディオ等に関する内外関係機関等との交流及び協力**については、「日本プロ音楽録音賞」を日本音楽スタジオ協会・日本レコード協会・日本ミキサー協会等と共催しソフト・ハード間の連係を深めます。また、プロフェッショナルオーディオ協議会に参画し民生・プロ分野間の連係を深めます。新たに住宅関連機関との交流を行い、オーディオ等と住環境分野の連係を深めます。

## 平成18年度 収支予算書

(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

(単位:千円)

### 収入の部

	平成17年度収入実績			平成18年度収入予算案			差額		
	合計	一般会計	特別会計 (展示会)	合計	一般会計	特別会計 (展示会)	合計	一般会計	特別会計 (展示会)
1. 前期繰越	33,702	21,173	12,529	44,630	22,052	22,578	10,928	879	10,049
2. 会費(含入会金)	31,018	31,018		41,940	(1) 41,940		10,922	10,922	
3. 特別会費	4,000	4,000		0	0	0	-4,000	-4,000	
4. 事業収入	147,523	4,042	143,481	92,980	1,780	91,200	-54,543	-2,262	-52,281
情報の提供	2,089	2,089		0	(2) 0		-2,089	-2,089	
評価用音源	1,953	1,953		1,780	1,780		-173	-173	
展示会	143,481		143,481	91,200		91,200	-52,281		-52,281
5. 助成金収入	5,850		5,850	3,300		(3) 3,300	-2,550		-2,550
6. その他収入	1,253	1,253		1,510	(4) 1,510		257	257	
7. 小計(2～6.)	189,644	40,313	149,331	139,730	45,230	94,500	-49,914	4,917	-54,831
8. 情報整備引当金取崩	3,500	3,500		6,000	(5) 6,000		2,500	2,500	
9. 租税引当金取崩	1,800		1,800	1,800		(6) 1,800	0		0
10. 当期収入計	194,944	43,813	151,131	147,530	51,230	96,300	-47,414	7,417	-54,831
11. 収入計	228,646	64,986	163,660	192,160	73,282	118,878	-36,486	8,296	-44,782

- (注記) (1) 平成17年度実績 正会員 47社、3団体、賛助会員15社、一般418名、シニア137名、賛助34名 合計589名 (平成18年3月31日現在)  
平成18年度予算 正会員 29社、6団体、賛助会員29社、一般150名、シニア80名 合計230名
- (2) 協会誌広告収入・年間購読料
- (3) 展示会開催に対する助成金(Sarah: 3,000千円 横浜市: 300千円)
- (4) 音の日会費: 250、新春の集い会費: 250、音の日行事分担金: 420、サ라운드ホームページ協力金: 590(JEITA SS専門委員会)
- (5) ホームページの制作運用、会計・管理・会員等の情報管理システム更新のための引当金取崩
- (6) 消費税納税のための引当金取崩

### 支出の部

	平成17年度支出実績			平成18年度支出予算案			差額		
	合計	一般会計	特別会計 (展示会)	合計	一般会計	特別会計 (展示会)	合計	一般会計	特別会計 (展示会)
1. 事業支出	140,749	14,967	125,782	121,560	19,430	102,130	-19,189	4,463	-23,652
調査・研究	54	54		1,000	1,000		946	946	
普及・啓発	3,446	3,446		9,500	(1) 9,500		6,054	6,054	
基準の作成(音源)	1,084	1,084		1,050	1,050		-34	-34	
情報の収集・提供	9,633	9,633		7,130	(2) 7,130		-2,503	-2,503	
展示会の開催	125,782		125,782	102,130		(3) 102,130	-23,652	0	-23,652
対外交渉	750	750		750	(4) 750		0	0	
2. 管理費	2,977	2,977		3,060	(5) 3,060		83	83	
3. 事業管理費	32,240	18,740	13,500	38,786	(6) 27,286	(7) 11,500	6,546	8,547	-2,000
4. 情報整備引当金	6,000	6,000		1,054	(8) 1,054		-4,946	-4,946	
5. 租税引当金	1,800		1,800			0	-1,800		-1,800
6. 記念事業引当金	250	250		250	(9) 250		0	0	
7. 当期支出計	184,016	42,934	141,082	164,710	51,080	113,630	-19,306	8,147	-27,452

### 収支バランス

8. 当期収支差額	10,928	879	10,049	-17,180	150	-17,330	-28,108	-730	-27,379
9. 次期繰越収支差額	44,630	22,052	22,578	27,450	22,202	5,248			

- (注記) (1) 音の日行事: 2,550、普及推進事業費: 6,500 (単位: 千円)
- (2) ホームページ制作・運用費
- (3) 特別会計(展示会)の事業費(内訳: 別表1. 経費内訳)
- (4) 他団体への協力金(スタジオ協会、デジタルコンテンツ協会、展示会協会)
- (5) 協会一般事業の管理経費(内訳: 別表1. 経費内訳)
- (6) 一般会計事業に伴う固定的経費(内訳: 別表1. 経費内訳)
- (7) 特別会計(展示会)事業活動に伴う固定的経費(内訳: 別表1. 経費内訳)
- (8) ホームページの制作運用、会計・管理・会員等の情報管理システム更新のための引当金繰入
- (9) 創立55周年記念事業の引当金繰入

## 入会金及び会費規則

平成 18 年 4 月 1 日より入会金及び会費規則の別表を次の通りとする。

種 別	基 準	入 会 金	会費 (年会費)	事 業 規 模
正会員	法人会員 A 会員 B 会員 C 会員 D 会員 E 会員 (注 1)	1 口 85,000 円	1 口 200,000 円 25 口以上 9 口以上 6 口以上 4 口以上 1.5 口以上	株式 1 部上場会社 株式 1 部上場会社 株式 2 部上場会社 株式店頭公開会社 株式未公開会社
	団体会員 (注 1)	1 口 50,000 円	1 口 100,000 円 1 口以上	
	個人会員 (注 2,3)	3,000 円	6,000 円	
賛助会員	法人会員 (注 1)	1 口 50,000 円	1 口 100,000 円 1 口以上	(注 4)
	個人会員	無料	無料	

### (会員の種別について)

#### 1. 正会員

法人 A 会員:オーディオ及びオーディオビジュアル関連事業の規模が特に大きい株式 1 部上場会社

法人 B 会員: A 会員に該当しない株式 1 部上場会社

法人 C 会員、D 会員、E 会員: 上記の会員事業規模による区分

団体会員: オーディオ及びオーディオビジュアル関連事業を行う団体

個人会員: オーディオ等に関する専門的知識を有し本会の目的に賛同する者

#### 2. 賛助会員

法人会員: 本会の事業を賛助する法人及び団体

個人会員: オーディオ等に関心を持ち本会の目的に賛同する者

### (表中の注記について)

別表にある注記は平成 18 年 4 月 1 日以降適用する

(注 1) 普及事業を審議推進する普及推進部会への参加会員は 0.5 口相当の部会費を負担する

(注 2) 63 歳以上の会員は会費納入時に申告することによりシニア会費 (入会金 2,000 円, 年会費 3,000 円) の適用を受けることができる

(注 3) 個人正会員の紹介により入会する個人正会員は入会金を免除する

(注 4) 企業内分社や事業所,販売店,ベンチャー企業等は 0.5 口の適用を受けることができる

### (その他)

特別顧問及び顧問は会費の納入を要しない

平成18年度 役員 (ご就任年度順)

役員	氏名	所属
会長	鹿井 信雄	
副会長	周田 悦治	松下電器産業株式会社
副会長(新任)	三村 益一郎	日本ビクター株式会社
副会長(新任)	山内 慶一	パイオニア株式会社
副会長(新任)	大津 雅弘	ソニー株式会社
専務理事	藤本 正熙	
理事	佐倉 住嘉	ボーズ株式会社
理事	山崎 芳男	早稲田大学
理事	栗原 昭	アルパイン株式会社
理事	谷口 好市	ラオックス株式会社
理事	松下 和雄	株式会社オーディオテクニカ
理事	齋藤 重正	アキュフェーズ株式会社
理事	橘 秀樹	
理事	八幡 泰彦	株式会社エス・シー・アライアンス
理事	澁谷 敏旦	ビクターエンタテインメント株式会社
理事	田中 純一	社団法人日本レコード協会
理事	田村 英二郎	株式会社ケンウッド
理事	西野 司	パインリッジインダストリー株式会社
理事	濱崎 公男	NHK放送技術研究所
理事	穴澤 健明	株式会社ディアールエムソリューションズ
理事	宮坂 榮一	武蔵工業大学 環境情報学部
理事	森 芳久	
理事	後藤 正男	株式会社ディーアンドエムホールディングス
理事(新任)	内沼 映二	株式会社ミキサーズ・ラボ
理事(新任)	片山 幹雄	シャープ株式会社
理事(新任)	北川 直樹	株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント
理事(新任)	沢口 真生	
理事(新任)	中西 康之	三菱電機株式会社
理事(新任)	中山 二三夫	ヤマハエレクトロニクスマーケティング株式会社
理事(新任)	松田 賢一	株式会社メディアコミュニケーションズ
監事	坊上 卓郎	
監事	畑仲 公夫	
特別顧問	中島 平太郎	
顧問	山本 武夫	

# 平成 18 年度 社団法人日本オーディオ協会組織図

(平成 18 年 6 月 5 日現在)

会 長 鹿井 信雄  
 副会長 周田 悦治  
 三村 益一郎  
 山内 慶一  
 大津 雅弘  
 専務理事 藤本 正熙  
 ほか 理事 24 名  
 監 事 2 名  
 特別顧問 中島 平太郎  
 ほか 顧問 1 名

